

## 木村賞第9回授賞報告（2020年度）

高木 真人\*

横断型基幹科学技術研究団体連合（以下「横幹連合」）は、横断型基幹科学技術の発展に寄与する優れた研究を顕彰したいとの第2代会長木村英紀氏のご篤志によりいただいたご寄付を基金とする木村賞を2012年度より設置し、横幹連合コンファレンスでの特に優れた研究発表を表彰している。2020年度は10月8日、9日に開催された第11回横幹コンファレンスでの発表論文に対して、木村賞の選考を行い、1件の論文に木村賞を授与することとした。

本年度の具体的選考手順を以下に示す（木村賞授賞規程に基づく）。

- (1) 審査委員会の設置（2020年8月20日理事会）  
審査委員会の構成：高木 真人（審査委員長，学術・国際委員会管掌副会長）他，幹事，委員6名
- (2) コンファレンス予稿原稿に基づく事前一次審査（2020年8月31日～9月17日）：審査対象論文66件より20件の一次審査通過論文を選考
- (3) 事前二次審査（2020年9月17日～10月1日）：一次審査通過論文20件より4件の二次審査通過論文を選考
- (4) 二次審査通過論文のコンファレンスにおける発表時審査（2020年10月8日，9日）：4件の候補論文の評点順位付け
- (5) 審査委員会で理事会に推薦する1件の論文を選考（2020年10月14日）
- (6) 理事会において2020年度木村賞受賞者を選考（2021年2月19日）

2020年度木村賞の1件の受賞者，対象論文ならびに選考理由は以下の通りである。

なお，授賞式は2021年5月17日に開催された横幹連合総会において行い，受賞者からは受賞論文について発表していただいた。

\*横幹連合副会長，木村賞審査委員会委員長，日本工学会

Received: 19 February 2021.

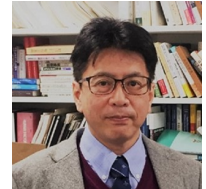
### 2020年度木村賞受賞者，対象論文ならびに選考理由

受賞者：竹村 和久（早稲田大学），

対象論文：竹村 和久（早稲田大学）

村上 始（早稲田大学）

「消費者行動における意思決定過程の解明と消費者支援」



選考理由：

本発表は神経科学的手法による消費者の意思決定過程解明と，消費者支援やマーケティングへの応用に関するサーベイ，ならびに眼球運動計測を用いた意思決定過程解明の知見を述べたものである。

「横幹性」の面では，多くの学術の融合領域であり，経営学者，経済学者，心理学者，神経科学者など幅広い研究者や，産業界におけるマーケティングの実務家による研究が進められているニューロマーケティングについて，神経科学的手法である脳機能画像計測，眼球運動計測などの生体計測の展望とともに消費者の意思決定過程の解明を進めており，異分野の融合による新しい社会的価値の創出を目指す横幹連合の理念に合致する。

また「有用性」の面では，消費者の意思決定過程について，生体計測の知見を論評するとともに，商品選択中の消費者の眼球運動計測による意思決定過程の知見を得ている。併せてマーケティングの観点から消費者の注意のコントロールと商品の使用体験の意思決定への影響を示唆し，マーケティングに関わる幅広い活動にとり有益である。

「将来性」の面では，意思決定を構成する多重なシステムのうち，特に無意識的な言語化される前の感情の可視化や感情の変化を定量データとして客観的に評価することにより，マーケティングや消費者支援などへの様々な展開が期待される。

以上の理由により，木村賞審査委員会は，本論文を第9回木村賞授賞に相応しく，横断型基幹科学技術の発展に資する優れた論文であると評価する。

選考理由に記述した通り，本論文は，幅広い研究者や産業界の実務家による研究が進められている領域であり，横幹連合内外での研究による益々の貢献を期待するものである。